

さかさいばやし

# がんばれ逆井囃子

今年の正月二日、逆井地区では獅子舞が家々を回り、にぎやかなお囃子がひびいた。富士浅間神社の囃子連中の一行である。獅子舞だけかと思われがちだが、五穀豊穡、家内安全の祈願が本筋で、正月二日と七月十五日の例祭には大太鼓1、小太鼓2、横笛1、鉦（かね）1の厳粛な祭礼囃子が流れる。

その鉦には文政十年と印刻されており、百六十年前から営々と受け継がれてきた。二つの小太鼓では「先ぶち、後ぶち」という打ち方があり、これが好評で、近隣に呼ばれて伝授してきたそうである。

問題は後継者である。盛時には三十人ほどいた保存会のメンバーも半分ほどになっ

て、先行きが心細い。これを逆井中学が総合学習にとりいれ、保存会が指導している。昨年六月の同校の創立二十周年を祝う会でも生徒たちの見事な演奏が披露された。教育に地域と連携した効果が期待できそうである。



逆井中の生徒による元気な逆井囃子



正月2日の早朝、祈りを込めて音合わせ。さあ、獅子舞に出発

祭りには面白さ、楽しさが大事。逆井囃子には「仁羽（にんば）」という、おかめ、ひよっとこの面をつけた掛け合い漫才みたいなものがある。逆井中の二十周年で衣装を付け披露された（写真⑤の㊦）。掛け合いはなく、ゆったりした所作を見せた。仁羽を見る機会もなくなっている。



↑仁羽の所作

→南部公園で

## 逆井漫步28

平成13年1月